

# コミュニティ静岡



あなたのまちの  
コミュニティ活動情報誌

2014  
**10**月  
No.136



地域住民の力で生まれ変わった外堀



改善前の外堀



カワバタモロコについて学ぶ小学生

## カワバタモロコが教えてくれた協働の楽しさ

南御厨水辺の里を創造する会 (磐田市)

▼平成4年、南御厨公民館近くを流れる古川の河川改修が行われた際、日本固有の淡水魚で絶滅危惧類である「カワバタモロコ」が発見された。保護池が造られるも鬱蒼と茂る柳の木、背丈ほどの雑草の茂みに人々の訪れは皆無となっていた。

▼この環境を何とか改善し、地域住民憩いの場にしたいという思いから、各自治会長が中心となり平成16年に南御厨水辺の里を創造する会が発足。市の補助金を受け、各住民組織や団体、ボランティアなど地域住民の協働により保護池周辺の環境整備を行い、今では住民から愛される場に生まれ変わった。何よりもこの取り組みにより、住民間の

仲間意識が拡大し、自治会活動への参加が増加するなどの効果があり、住民協働の重要性を知ることができた。

▼平成21年度からは、夕涼みをしながら楽しんでもらうと「水辺の里コンサート」が始まり、今年は水辺の里リニューアル記念も兼ねて、第6回水辺の里「夕涼みフェスタ」を開催。演奏やダンス、模擬店が祭りを盛り上げた。

▼現在は、補修や草刈り、花壇の手入れを主な活動としており、毎年多くの住民が参加している。

◇代表：藤原孝一さん（問合せ・☎0538-35-7722）

【情報提供・森岡たか子】

## Contents No.136

各地の活動	●磐田市	1
クローズアップ	●Uターンしたくなる故郷（伊豆の国市）	2
専門委員コラム	●記録をとってますか？ 川口良子氏	3
各地の活動	●河津町・裾野市・静岡市・藤枝市・菊川市	4~5
地域訪問記	●地域ぐるみで夏の夜を楽しむ（御前崎市）	6
コミねっとから	●キラリ！コミねっと、コミカレ研修スナップ	7
コミ推協から	●コミュニティ活動賞など	8



コミック  
のりづき・りえ

クローズアップ

# Uターンしたくなる故郷

～伊豆の国市韮山多田地区～

多田地域資源保全の会・子ども会

古くは北条政子、北条早雲などの歴史上の人物で、近くは世界文化遺産登録を目指す韮山反射炉などで話題の伊豆の国市韮山。ここに農業の盛んな多田地区がある。世帯数150、人口500～600人ほどの多田地区ではコミュニティ活動がしっかり根付き、実に盛りだくさんの行事がある。今年のコミュニティ静岡4月号に掲載された「山の神講 二杯盛り」をはじめとしてこども田植え、盆踊り大会、区民体育祭、通学合宿、神社の祭典、などなど。主催、共催も、多田区自治会、多田地域資源保全の会（以下保全の会）、部農会、コミュニティ、子ども会など多岐にわたる。



▲この日は、1時間30分程で植え付けました

## “泥んこになって田植えを経験しました”

今回は“泥んこになって田植えを経験しました”との活動情報をいただき取材に伺った。応じてくれたのは、区長

であり情報通信員でもある小川さん、保全の会代表の古屋さんと、古屋家のお嫁さんで子ども会の会長の3人だ。

平成18年、農地整備事業として立ち上げた保全の会は、用水の整備や修復、景観植物ワイルドフラワーの種まきなどをする傍ら、子ども会と連携をとり、通学路沿いの田んぼ二カ所（併せて約2.2反≒22アール）を借り子どもに田植え体験をさせた。農家の多いこの地区でも機械化が進み、子どもたちも手で苗を植える方法など知らずに育っている。

今年は6月21日、大人が代掻きなどの準備をしてくれた田んぼで、早苗を手に多田地区の小学生37人のほとんどが参加し、けがもなく無事田植えの経験ができた。田んぼに入っの泥んこ遊びも大いに楽しんだ。



▲植え方を教わり、泥んこ田植えの始まり

## 経験には続きがある

この経験には続きがある。植えた苗は日々成長する。子どもたちは毎日その成長ぶりを見ながら登下校している。そして11月には刈入れた。保全の会や部農会の人たちの指導を受けながら、小学1年生も鎌を持ち、稲を刈る。刈った稲を稲掛けして天日干しするのも子どもたちだ。収穫したお米の一部は12月の防災訓練に供出し、炊き出しに使用したり、餅米に交換してもらい、餅をついて参加者にふるまう。ここでも子どもたちは杵を持ち、臼をめぐ

て餅をつく。ヨロヨロと持ちあがる杵に笑いが起こる。

## 大切な資源の保存

小学生時代に多くの人とかかわりを持った子どもたちは、中学生になると独居老人の家庭を回ってゴミの回収をしたり、子ども会の行事（相撲大会やサロン慰問）の応援をしたりなど、その世代でできることを区民みんなが実行している。人と人、世代と世代のつながりを大事にしている多田地区だからこそであろう、いったん故郷を離れた若者が子育て世代になると戻ってくるのだという。だから、少子化の時代にあっても、小学生の数が減らない。と保全の会の古屋さんが話してくれた。

考えてみれば用水などのインフラも、子どもたち（人）も地域の大切な資源だ。そんな資源をこれからもずっと保存し続けてほしい。

◇多田地域資源保全の会代表：古屋 久さん  
子 ども 会 代 表：古屋明日香さん  
（問合せ・☎055-949-0416）



▲ノギリ鎌を使い稲刈りをする。稲掛け作業の様子

 レポート・三戸部 孝 編集委員

### ■推進専門委員コラム

## 記録をとってますか？ 活動を“見える化”しておきましょう

合同会社デザイン・アープ代表 川口良子 氏



皆さんは、自分たちの活動の記録や写真を残していますか？「活動そのものに追われて、それどころではないよ」あるいは、「記録をとっても、その後使わないし・・・」と考えていらっしゃる方もいるかもしれません。結論から言います。記録はとっておきましょう。そして、それをみんなで共有化するようにしましょう。

「え～、文章は苦手」、「きれいな誌面は作れない」、「フェイスブックとかITは使えない」等々、面倒くさいと思われるかもしれませんが、きれいにまとめようとか、手段をどうしようとか考えないで、とにかく、写真を撮り、日時とその時の様子、嬉しかったことや大変だったこと等を、ほんのつぶやき程度でも良いので、記録に残しておくことをお勧めします。

活動の写真を見ながら仲間との会話が弾んだり、昔の人たちのちょっとした日常を写した写真で多くの気づきを得たりした経験はありませんか？記録は、仲間どうしの結びつきを強めることに役立ちます。そして、次世代に自分たちの思いを伝え

るためには不可欠なものです。

特別な催しの際だけでなく、会議や準備作業などの日常の活動風景を、記録係を決めて、数枚で良いのでこまめに写真を撮り、メモを残すことを習慣化すると、自分たちの活動を見える化でき、活動の振り返りに役立ちます。そして、何より自分たちの活動をいきいきと他の人たちへと伝えることが可能となり、ネットワークを広げるきっかけ作りに役立ちます。記録は情報発信の重要な材料なのです。

また、たまった記録の整理や編集作業を、みんなで作ってみるのも良いと思います。イラストが得意な人、キャッチフレーズ等のコピーの上手い人等々、仲間の隠れた才能が見えてきたりします。写真を中央に貼り付け、周りに寄せ書き風にコメントを書くだけでも良いのです。仲間の思いが見える化できます。

時は過ぎても記録は残ります。そして記録によって、情報は伝わるのです。

# まちから・むらから

●河津町



カップに近付けたかな？

## 大ガッパから子ガッパへ川遊び伝授 特定非営利活動法人<sup>とうゆう</sup>豆游義塾

▼河津町を拠点とする豆游義塾は、剣道を核に伊豆半島をフィールドとして青少年育成に取り組んでいる団体である。今回、川遊びの体験を通して危険の予測や

方(ワニ歩き)、川遊びのルールなど、川で安全に遊ぶための基本の視点と技術を伝えた。

また、ライフジャケットを着用し、水中観察や背浮きでの川流れ、飛び込みなどを体験し、約20人の子ガッパたちが川遊びの楽しさと川の危険を学んだ。

▼この事業の特徴は、第一にライフジャケット着用励行の実践活動であること、第二に豊かな自然の中で遊びの継承に着目したこと、第三に体験を通して安全教育を重視し、基本技術の習得を目標に位置づけていることである。

▼来年度は、地域の皆さんの理解と協力をいただき、子どもの遊び場の確保を目指し、川遊び以外にも更に活動を広げ地域づくりに貢献していきたいと長田代表は言う。

◇代表：長田育郎さん(問合せ・☎0558-32-3400)

【情報提供・飯田敏晶】

対応能力を身につけ、水辺への興味・関心を高めようと川遊び自然体験事業を開催した。

▼「河津川の大ガッパから子ガッパへ(秘伝巻の巻)」をキャッチフレーズに掲げ、命を守る息をする技術、ライフジャケットの着用方法と浮き方・立ち方、川の安全な歩き

●裾野市

## 地域をつなげる朝市を開催

## おいしい生活実行委員会

▼太陽(SUN)が終日降り注ぐ、裾野市深良の三(SUN)条駐車場で、毎月第三日曜日(SUN)に行われている「SUNの市」。

地元の素晴らしい野菜やおいしい食べもの、毎日の生活を彩る雑貨・小物まで、“カラダとココロと毎日の生活にうれしいもの”をたくさん並べて、地域交流の場を設けたいという思いから始まった。

▼出店数は15店舗前後。代表者の横山さんがSNS(インターネットを使ったサービス)で呼び掛け、趣旨に賛同した地元や近隣で活動する仲間たちが多く出店している。もちろん“カラダとココロと毎日の生活にうれしいもの”があればどなたでも出店できる。(出店料500円)

市では1番人気の有機野菜の他、原木椎茸、干物、コーヒー、お惣菜、アクセサリー、手作り石鹸、裂き織バッグ

などのハンドメイド作品も人気だ。

▼市民活動センターとのつながりがあることから、障害者野球大会にSUNの市メンバーもボランティアとして参加した。

SUNの市の収益は、経費を除いて福島県相馬市震災遺児あしなが募金に寄付している。

皆様!毎月第三日曜日、三條駐車場でお待ちしております。

【情報提供・志田瑞代】



お店の人との会話も楽しい

●静岡市



ユニホックで遊ぶ児童たち

## あげは蝶になって飛び立とう! 放課後支援事業所 あげは

▼清水区堂林地区に、通学中の障害児を対象とした、放課後や休業日の利用施設「放課後支援事務所 あげは」がある。生活能力の向上のために必要な訓練を受け

現在、地域の学校の支援クラスの児童や支援学校の児童10数名が来所し、宿題や運動、清掃などをして帰宅する。また、町内会の行事にも参加させてもらい、地域との交流を図っている。

▼開所して3年。集団行動が苦手な児童も少人数の取り組みの中で少しずつ流れに沿って過ごし、友達とのコミュニケーションも取れるようになるなど成長を感じている。

▼長期休みの際には、岡小学校の体育館をお借りし、ニュースポーツのユニホックを楽しんでいる。

初めは、全く興味を示さなかったが、徐々に笑顔が見えだした。まだ始まったばかりだが、いずれは障害者スポーツ大会に出ることを目標に楽しんでいる。

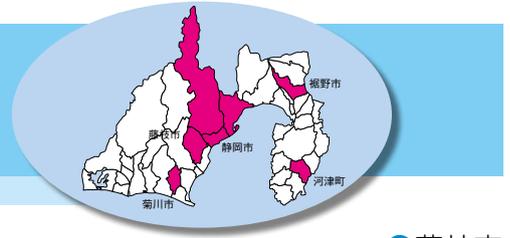
◇代表：井上温子さん(問合せ・☎090-4867-9504)

【情報提供・望月由美子】

ることや社会との交流の促進、また、児童の保護者が安心して働けるようにと開設した。代表者の井上さんには、身内に支援施設の利用者がおり、施設が不足している現状を知っていた。そこで所有する空地に、「失敗したら自宅に使用すればよい!」と支援事業所を建てた。

各地の活動

# 各地の活動情報



● 藤枝市



6月、園児らとジャガイモ掘り

▼農業に関しては全員素人、指導本を片手に放置されて固まっていた土を起こし、土作りから始めた。初年度は、サツマイモ、ナス、オクラなどを栽培するも、収穫時期が遅れてオクラが巨大化したり、ある年には、そろそろ収穫と楽しみにしていたスイカがカラスに突かれていたりなど、思うようにはいか

## 休耕地を利用した地域交流

## 南新屋ダッシュ村

▼藤枝市で活動する南新屋ダッシュ村は、町内の休耕地を活用し農作業を通じて地域住民同士の交流を進めようと発足した。会員は20人、平均年齢50歳の現役世代である。

なかった。「素人がいつまで続くか」と遠巻きに見ていた周辺農家の人も、会員の真剣な姿を見てアドバイスをくれるようになった。今では農地所有者から「うちの休耕地も活用して欲しい」と頼まれるようになっている。

また、近隣の保育園に声を掛け、イモ掘りを体験してもらったり、収穫したサトイモ、サツマイモを地元のNPOを通じて山間地のお年寄りに安価で販売したり、他機関との交流も始まった。

▼地域の高齢化が進んでいる今、私たちが定年になり時間ができた頃に規模を拡大し、農家の方々のお手伝いのできたらと代表は言う。

11月の青島北地区ふれあいまつりでは、収穫物を販売し活動をPRする。

◇代表：増井洋一さん（問合せ・☎054-641-3296）

【情報提供・市川勝弘】

● 菊川市

## 川の探検と子ども昆虫展

## 平川地区コミュニティ協議会

▼平川地区コミュニティ協議会では、平成22年から始まった菊川市の1%地域づくり交付金事業を活用し、楽しみながら自然環境への関心を持ってもらおうと、毎年夏休みに、子どもたちと近くの川へ探検に出かける。川遊びと川に生息する生物の観察採集を行い、採集した生物は地区コミュニティセンターに持ち帰り、翌日から始まる子ども昆虫展に展示する。

▼昆虫展では、会員が近隣から採集した「カブトムシ」を中心に特設小屋が設置され自然を再現している。小屋の中で生きた昆虫を直に触れ、センター入り口では大きな水槽に採集した「ザリガニ」を放ち、釣り体験。

身近な生物を見たり触ったり捕まえたりすることで、子どもは自然の営みが理解でき、夏休みの良き思い出作りに役立っている。

▼川の探検は「ひらかわ科学少年団」を中心に実施し、貴重な「ほとけどじょう」なども採取された。「ヤゴ」は昆虫展期間中に孵化してトンボとなって飛び立った。

▼協議会の会員は、毎夜カブトムシの採集に出かけ苦労も多いが、目を輝かせ歓声を上げながら喜ぶ子どもの姿で報われる。

◇代表：黒田淳之介さん（問合せ・☎0537-73-2003）

【情報提供・橋本哲夫】



ザリガニ釣りの様子

## 地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス <http://www.sizcom.jp>）

No	市町	活動名	主催者	月日	場所
1	東伊豆町	健康長寿のための教室	稲取ひまわり会	毎週 水曜日	いきいきセンター東伊豆町稲取
2	西伊豆町	再生休耕地と景観植物の植栽	宇久須まちづくり協議会 スローライフ部会	平成26年4月～平成27年3月	宇久須地区休耕地
3	伊東市	伊東の夏は「按針祭」で盛り上がろう	伊東市観光協会・市役所・按針祭 執行委員会	平成26年8月8日（金）～8月10日（日）	伊東市内
4	沼津市	三津坂周辺の花木の育成を行う	三津坂環境緑化推進協議会	月 1回	内浦三津坂
5	三島市	老人保健施設でお年寄りとの交流	ボランティアグループ「太陽」	月 2回	三島市 介護施設 ラサンテふよう
6	富士市	ふじかわ夏まつりのための富士川 クリーン作戦	富士川地区まちづくり協議会	平成26年7月26日（土）	富士川河川敷夏まつり会場とその 周辺
7	藤枝市	史跡の菊花展でまちの活性化に貢献	藤枝菊花会	平成26年11月1日（土）～20日（木）	藤枝市 田中城下屋敷
8	島田市	救急介護訓練講習会	エンジョイうしお	年1回	牛尾構造改善センター（牛尾公民館）
9	御前崎市	「お化け屋敷」で思い出づくりの お手伝い	明るい農村の会	平成26年7月18日（金）	佐倉公民館 さくらんぼホール
10	掛川市	笑顔に励まされ20年	こすもすの会	通年	地元のディサービス施設、公民館など
11	湖西市	静岡市地震防災センター視察研修会	新居地区自主防災会連合会	平成26年6月15日（日）	静岡市地震防災センター

## 地域訪問記

# 地域ぐるみで夏の夜を楽しむ

玄保会 (御前崎市)

御前崎市にある佐倉は、龍神が住むという神秘的な桜ヶ池が知られている。今回、佐倉1区の町内会にある世帯数100世帯余りの玄保地区で活動する「玄保会」を紹介する。



飲み放題、食べ放題！1家族2,000円

同会は、青年から50歳位までの正会員27人、OB14人、顧問32人の計73人の中年会である。会長は40代で、ユニークなことを企画する時はOBに相談をするが口出しされることはない。この居心地の良さが親子での入会が多いことに表れている。

市の社会教育学級という位置づけもあるが、活動の目的はいたってシンプルで、「みんなで楽しむことを子どもたちにも伝えたい！」である。また、この活動によって世代間交流や、地域の親睦を深めることも目指している。

## 飲みニケーション、トントン拍子で決まる

箴川（おさがわ）の桜の木は、平成の初めに同会が植え、春と秋の土手の草刈りや桜の手入れを続けている。例年、箴川堤防で開催する花見だが、近頃は親も子も皆忙しい。「大勢参加してほしいね」「それなら夜桜見物にしよう」と決めたが早いか、「提灯は商工会で借りてこよう」「電源と配線は頼む」と会長宅で段取りが決まっていく。そして飲みニケーションが始まり、また新しいアイデアが生まれてくる。いつもと違う夜の花見に子どもたちはワクワクし60人ほどの花見客でにぎわった。

## 恒例の夏祭りと大人でも背筋の凍る肝試し

8月の第2土曜の夕方、憩いの家で行う夏祭りに人が

集まり始める。バーベキューやかき氷、フランクフルト、昔の遊びなどを楽しむ。

今年のピンゴの景品は地元商店で使える商品券もあり、あちこちで歓声が上がる。玄保地区はもともと個人商店や事業者が多く、食材や生活に関するものは調達できる。地域の中でお互いに助け合い賄ってきた。祭りは交流とともに地域経済が潤う機会にもなる。

夏らしい企画「肝試し」は、子どもたちも喜ぶに違いないと、案が出てから3年越しで実現した。安全性や天気も考慮し、防災センターを借りてPTAも巻き込み大がかりに仕掛けた。暗幕を張った館内にはお経が響き渡り、子どもたちは3人1組で明りを持って指示書に従って進む。暗闇に現れるお化けたち、立ち止まると突如足首を掴まれ、恐怖は最高潮に達する。最後は生首と御対面して終了。参加者は泣き出したり、震え上がったたりして、肝試しは大成功だった。

過去の夏祭りでは、遠州の凧作り、昭和の写真や8ミリ上映会をはじめ、地域資産や人の特技を活かした新たな企画を打ち出し、親から子へ文化の伝承をしている。

## 継続の秘訣は…

会員にはPTAと兼任する者もあり、同会の活動がPTAと協働することも多いので、今年はPTA経由の入会者が5人いた。新しい人に活動の説明をすると、約80%の方が入会してくれる。

会の目的である「子供を主体に、地域で楽しむ」の企画・実行をし、自分の喜びよりも人の喜びに主眼を置いていることが継続の秘訣であると感じる。

また、開放的な土地柄が若い世代の定住につながっているようで、100世帯余の町内に40人の小学生がいることはうらやましい。

◇会長：塚本 渉さん

【情報提供・塚本まゆみ】



取材に応じてくれた樽林さん(左)と塚本さん



レポート・萩原佐枝子 編集委員

## キラリ!コミねっと



地元の施設やまめ平でやまめ釣り

コミカレ・ねっとわーく会員の活動紹介します!

## コミカレ受講でサロン活動の後継者育成 やまびこクラブ(島田市)

活動は年4回。活動費は、自治会・伊久身コミュニティ委員会・島田市地域ふれあい事業・社会福祉協議会からの補助金と500～800円程度の参加費で賄っている。

### ～長く続けるには～

75歳以上で、地域を走るバスを利用できる方を対象としている。これは、送迎などスタッフに掛かる負担を減らすためだ。「無理をしないで、長く続けよう」とは、代表が仲間に必ず伝えてきた言葉である。と言いながらも、歩行不自由な人がどうしても参加したいと希望すれば、お迎えに伺う。

地域の皆さんに恵まれ、声を掛ければ気持ちよくやまびこクラブに協力してくれる環境にあるが、前回のこの舞にならぬよう、若い正スタッフを増やして後継者をつくるためにも、これからもコミカレに送り出していく。

### ～3人集まれば～

代表者の石神さんは、伊久身コミュニティ委員会会長時代に、コミカレを受講した。その後、同地区に住む知り合いをコミカレに送り出し、年々コミカレ仲間が増えていった。

そのうちに、コミねっと総会や支部研修会などにコミカレ仲間と参加し道中を一緒にする中、「みんなで、サロン活動を復活させようじゃないか」と声を掛けたところ、賛同を得ることができ、平成22年に創立者の樋澤さんを相談役に迎えて新生やまびこクラブが誕生する。正スタッフ8人に準スタッフ(自治会役員、保健委員、コミュニティ委員、ボランティア)が加わりサロンを開催している。



参加者もスタッフも楽しんでいます

## コミカレ 研修スナッフ

## 地域での活躍を誓い42人が巣立つ

通算35回目となる本年度の「コミュニティカレッジ」が9月20日に終了しました。男性28人、女性14人、計42人が修了し、第1回目からの修了者は、人となりました。地域での積極的な活動を期待します。



# コミ家

のりづくり



## 編集・発行

静岡県コミュニティづくり推進協議会  
 〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70  
 総合社会福祉会館3階  
 TEL 054-251-3585  
 FAX 054-250-8681  
 URL <http://www.sizcom.jp>  
 E-mail [sizucom0829@po.across.or.jp](mailto:sizucom0829@po.across.or.jp)  
 地域情報お寄せ下さい。

## コミカレ・ねっとわーく 支部研修会のお知らせ

### ●東部支部

11月15日(土)  
 富士川ふれあいホール

### ●中部支部

10月19日(日)  
 島田市西部ふれあいセンター

### ●西部支部

9月25日(終)木  
 菊川市市民公民館



## 「出張コミュニティカレッジin磐周」を開催!

本講座では、コミュニティづくりの大切さ、地域での話し合いの進め方や連帯感の育て方など、コミュニティ活動を進める上で必要な知識やスキルを学んでいきます。

下記のとおり開催しますので、皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

募集人員：磐周地域から30人程度

応募条件：2日間とも出席可能な方

受講料：無料

当協議会へ直接、お申し込みください。

※応募の締切りは、平成26年11月14日(金)

日時	研修内容	会場
平成26年 11月22日(土) 9:30~15:40	・開講式	磐田市 ワークピア磐田
	「コミュニティづくり」 ～若者を巻き込んだ地域活動実績～	
	「コミュニティリーダーにト・ラ・イ」 ～私が主役、これからの地域づくりを描く～	
「人と人との連携の取り方」 ～世代や組織を越えた地域住民の参画～		
11月29日(土) 9:30~15:30	「コミュニティ実施計画づくり」 ～ワークショップによる課題解決企画書づくり～	
	・閉講式	

## コミュニティ活動賞募集中!!

### 応募の対象と条件

- 1、今日的な生活課題、例えば、地域の活性化、高齢者問題や子育て支援、自然環境の保護・保全などの快適な生活環境整備、青少年の健全育成、ゴミ減量やリサイクル活動、国際交流などのテーマに取り組み、生き生きとした明るい地域社会の形成に向けて活動しているもの。
- 2、活動(組織)が発足して、1年以上を経過したもの。
- 3、平成21年度以降にこの「コミュニティ活動賞」で優秀賞、優良賞を受賞された地区集団については、本年度は応募できません。

### 賞

- ・優秀賞…賞楯と記念品
- ・優良賞…賞楯と記念品
- ・奨励賞…賞状

### 発表

平成26年12月初旬  
 (応募者に直接通知します)

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

